

センダン



金田にて

(撮影：桐原真希)

■紫色の霞が霧か

昨年6月10日のこと。蛩で有名な金田地区を自転車で走っていた。すると、視界の端に一角だけ薄紫色にぼやくと煙がかかっているように見える場所がありました。なんだろうと、自転車を止めて見てみると、それは木の花が満開になっていて、樹木が霞か霧に囲まれているように見えたものだったのです。木の正体は、センダンという名の落葉広葉樹でした。

■南方系の有用植物

間近で見ると、可愛らしい花が無数に咲き誇っていました。関東に住んでいた頃は見たことがなかったのですが、それもそのはず。センダンは、アジア各国に自生している南方系の樹木で、国内でも西日本を中心に分布しています。街路樹にもよく利用され、果実も生薬として、整腸作用や鎮痛の効果があり、葉っぱは強い除虫作用もあります。更には、最近の研究で抽出成分がインフルエンザウィルスを死滅させたという報告もあり、医療業界でも注目されています。

■鳥が落としたものは？

いつぞやの晩秋、米子の住宅街を歩いている時、電線に止まっているムクドリの子の群れが目に入りました。すると、その付近からパラパラ、カツンカツンと道路の上にかが落ちる音が聞こえてきました。どうやらムクドリが止まっていた真下に何か固い物が落下している模様。鳥が飛び去った後のぞいていたら、それはセンダンの種だったのです。音の正体は、輪切りにすると星形になるスターフルーツのような形をした固い種が、ムクドリの腸を通過して散布された音だったのです。私は、殆ど食べるどころがない種を見て、思わずくすりと笑ってしまいました。今年もこの花の季節になりました。蜜を吸いにどんな虫たちが訪れるか見てみたいものです。



10本の雄しべが筒状になっている

自然観察指導員 桐原真希